



守りたい故郷がある。
残したい風景がある。

飛騨市ふるさと種蔵村が開村しました

飛騨市宮川町種蔵地区に残る農村の原風景をいつまでも後世に引き継ごうと6月30日、景観保全活動にご支援いただく方々で組織する「飛騨市ふるさと種蔵村」が開村しました。



開村式に参加した村民と関係者の皆さん



午前中には草刈り作業が行われました

種蔵地区は、昭和のはじめ頃は20軒以上の集落でしたが、今は一桁となり、高齢化率も60%をはるかに超えていま

そのため、石積みの棚田が広がる景観の保全は地域の方だけでは困難となり、種蔵を守り育む会を中心に地域外からのボランティアが保全活動の中心となっています。

「飛騨市ふるさと種蔵村」とは、農村の原風景を後世に伝えるボランティアを募り、その方々を「村民」とすることで、支援者の確保と集落の維持を目的につくられた仮想の「村」のことです。

ふるさと種蔵村 開村式

飛騨市 ふるさと種蔵村

「飛騨市ふるさと種蔵村」とは、農村の原風景を後世に伝えるボランティアを募り、その方々を「村民」とすることで、支援者の確保と集落の維持を目的につくられた仮想の「村」のことです。

開村式では、都竹市長が「飛騨市ふるさと種蔵村を開村します」と声高らかに宣言し、その後、初代村長には地元種蔵地区の藤白昭一さんが任命されました。

藤白村長は「皆さんのお力によって今後も活動を続けていきたい」と抱負を述べました。引き続き、新しい村の役職が

藤白村長から任命され、副村長には以前から同地区の様々な活動に支援いただいている岐阜大学の高木先生、教育長には同じく愛知県立芸術大学の神田先生、環境課長として種蔵を守り育む会の幅会長、名誉村民として飛騨農林事務所の河瀬所長が就任されました。

また、村民を代表し、第1号登録者に選ばれた古川町の上窪祐子さんに、河合町の山中和紙で作られた特製のふるさと住民票が藤白村長から手渡されました。

最後に、「ふるさと種蔵村役場」の看板が都竹市長と藤白村長の手で掲げられ、大きな拍手とともに開村式が終了しました。

村民登録については下記よりご覧ください

【ふるさと種蔵村】で検索！

ふるさと種蔵村

検索

もしくは
QRコードで読み取り



飛騨市ふるさと種蔵村民になるには？

種蔵地区が大好きな方ならば誰でも村民になれます

村民の役割は？

種蔵地区のボランティア（草刈り・石積み）活動に参加願いますもちろん強制ではなく、出来る範囲で、お時間で結構です

村民になると？

オリジナルの住民票を交付します

保全活動に参加していただきますと、もれなく特産品をプレゼントします種蔵の旬な情報をお届けします